

「川に学ぶ体験活動協議会」活動紹介

NPO法人川に学ぶ体験活動協議会 事務局長 大井 里美

「川に学ぶ体験活動協議会」(略称RAC)は、「川の指導者」の育成や様々な活動を通じて川と人々の関係をより深いものにしていくことを目的に、平成12年9月に設立されました。さて、ここ数年はコロナ禍でRACだけではなく自然体験活動団体は大打撃を被っていましたが、やっと最近は徐々に動きはじめています。今後、川の活動が盛んになることを期待しております。今回もRACの報告をさせていただきます。



【第22回川に学ぶ体験活動全国大会 in 越前若狭】

昨年の全国大会は東京で開催されました。令和5年度は福井県福井市で10月21日～22日に開催されます。第4回の全国大会では福井県の日野川流域で開催をいたしました。それから19年の月日が過ぎてしまいました。今回は「川の体験」ノウハウ大百科～安全に体験できるため、私たちがやることは～」をテーマに開催致します。RACのホームページからお申し込みや詳細など確認できます。是非、ご参加お待ちしております。

【川の安全についての認識】



当法人は川で楽しく安全に活動する為に様々な取組をしています。ライフジャケットの推奨及び認定基準の策定、川の指導者の育成や各地での水難事故防止訓練等を行っています。先日、ある講座を開催いたしました。参加者の方々のほとんど水生生物観察をメインで川の活動を行っている方々です。いつもの通りに安全に活動する為の講習をしていました。参加者から「水深が浅くて気温が高い日でもライフジャケッ

トを着なければならぬのか?」「ヘルメットもかぶらなければならぬのか?」などの質問がありました。また、「川に3m以内に近づいたらライフジャケットを着なくてはいけないのか?」等、本当に様々な質問が飛んできました。活動するフィールドによって安全の認識が様々であると痛感させられました。しかしながら水深が浅い場所でも流れが速い、増水する、周辺に深みが存在するなど、指導者は様々なリスクを予想して安全対策を考えなければならぬと感じています。川で活動する全ての方々に水辺のリスクを知ってもらい、安全で楽しい水辺体験をして欲しいと考えています。

【魚道ワークショップについて】

当法人の新しい理事である日本大学工学部教授の安田先生に7月12日に日本大学工学部船橋校舎テクノプレイス環境水理実験室で「構造物周辺の危険性と安全対策」のお話しをしていただきました。河川に見られる河川構造物周辺の流れにどのような危険性があるのか、どのようにすると安全性が高まるのかなど実験を見学してお話しをしていただきました。実験の鉄柱を橋脚に見立てて、橋脚の上流側・下流側の流れの様相の違い、流量が多くなると橋脚の上流側が盛り上がり下流側の川底が削られる現象など実験施設で観察をするととてもその仕組みがよく分かります。また、石積みについても割石と丸い石での川の流れ方の違いや土砂の堆積の仕方などの様相が分かりました。石積みは積んだ石の間に隙間ができ、そこに魚たちの避難場所が出来るという説明をしていただき、とても魚にやさしい魚道なのだと感じました。今後このような取組が子どもたちにも説明ができる機会があればとても楽しいと考えています。



《NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会》

東京都北区田端 1-11-1 勘五郎ビル 104
TEL:03-5832-9841 FAX:03-6893-2642
<http://www.rac.gr.jp>